［認知症対応型共同生活介護用］

評 価 結 果 概 要 表

作成日　平成２０年1月２7日

【評価実施概要】

事業所番号	170501373		
法人名	医療法人　愛全会		
事業所名	グループホームひだまりの丘		
所在地	札幌市南区南沢４条１丁目７－１０ （電　話）５７３－３７００		
評価機関名	NPO法人福祉サービス評価機構Kネット		
所在地	札幌市中央区南１条西５丁目７　愛生舘ビル６０１Ｂ		
訪問調査日	2008年1月24日	評価確定日	2008年2月19日

【情報提供票より】（１９年１２月１日事業所記入）

（1）組織概要

開設年月日	平成13年12月1日		
ユニット数	3ユニット	利用定員数計	27人
職員数	23 人	常勤22人　非常勤　1人　常勤換算　0.15人	

（2）建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り
	2 階建ての　　1～2　階部分

（3）利用料金等(介護保険自己負担分を除く）

家賃（平均月額）	60,000 円		その他の経費(月額)	水道光熱費15,000円
敷　　金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無		有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	月額　43,000円			

（4）利用者の概要（　１２月　１日現在　）

利用者人数	27 名	男性	4 名	女性	23 名
要介護1	3名	要介護2	9名		
要介護3	8名	要介護4	6名		
要介護5	1名	要支援2			
年齢	平均　87.5 歳	最低	77 歳	最高	97 歳

（5）協力医療機関

協力医療機関名	医療法人愛全会愛全病院

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

広大で緑豊かな大学敷地の向かいに建ち、夏にはホームの目の前が一面のラベンダー畑という恵まれた住環境にある。ホーム壁面には運営母体のキャラクターが描かれ、道路に面してはグループホームの案内板が人目を引き、誰もが立ち寄りやすい雰囲気がある。またホーム前庭は芝が張られ、バーベキューや流しそうめんを地域の方々と一緒に楽しむことが出来る広いスペースがある。利用者同士の３ユニット間の相互訪問も日常的に行われており、よい気分転換になっている。職員の協力体制も全ユニット間で出来ているので、夜勤帯でも不安なく安心して勤務ができる。このホームの最大の特徴は母体が医療・福祉の法人でバックアップ機能が有効に働き、利用者も職員も大きな安心感に包まれている。町内会をはじめ、幼稚園・小・中校・大学と交流を持ち、地域に開かれたグループホームであるとの印象を強く受けた。今後のさらなる充実に期待したい。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況（関連項目：外部4）
	前年の外部評価の結果については全職員で改善点を話し合い、問題点を明確にし日々のケアの向上に取り組んでいる。
	今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4）
	自己評価作成は全職員が参加して実施され、さらにスタッフ会議で話し合いの場を持ち、管理者がまとめ作成した。問題点を明確にし日常のサービス見直しの機会として捉え、更なるケアの質の向上に活かしている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4，5，6）
	運営推進会議は家族代表・町内会長・民生委員・地域包括センター職員・グループホーム事業室・管理者等が参加し３カ月に一度開催。ホームからの報告の他に地域包括センター職員、地域代表、家族代表等の活発な意見交換がなされており、日々のサービス向上に活かしている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7，8）
	年一度無記名での家族アンケートの実施、運営推進会議の出席、電話や家族面会時の会話の中で苦情・要望をくみ取るようにし、ケアの改善や見直しに反映している。
重点項目④	日常生活における地域との連携（関連項目：外部3）
	町内会に加入し新年会・盆踊り等の町内会行事の参加。地域の中学校でのコンサート、大学祭等にも楽しんで参加している。幼稚園児も来訪し、ハンドベル・唄・遊戯等、愛らしい姿で交流し喜ばれている。日常的に散歩・買い物・理美容室利用等で挨拶を交わし、地域の人たちとの交流を深めている。ホームの夏祭りには近隣の住民を招待し、総勢100名で盛大に行われた。

評価結果　（詳　細）

NPO法人　福祉サービス評価機構Kネット

外部評価	自己評価	項　目	取り組みの事実（実施している内容・実施していない内容）	○印（取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容（すでに取組んでいることも含む）
Ⅰ．理念に基づく運営					
1．理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	人権を尊重しその人らしさを発揮できる生活の場を提供する法人と、各ユニット別の理念を作りあげている。さらに毎朝のカンファレンスで理念の共有について話し合いがなされ、常に職員の意識向上を図っている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念はホームの見やすいところに掲出され、家族にもわかるよう配慮されている。全職員がすべての会議を通じ理念を共有し、実践にむけ取り組んでいる。		
2．地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し新年会・盆踊り等の町内会行事の参加。地域の中学校でのコンサート、大学祭等にも楽しんで参加している。幼稚園児も来訪し、ハンドベル・唄・遊戯等、愛らしい姿で交流し喜ばれている。日常的に散歩・買い物・理美容室利用等で挨拶を交わし、地域の人たちとの交流を深めている。ホームの夏祭りには近隣の住民を招待し、総勢100名で盛大に行われた。		
3．理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は全職員がし、さらにスタッフ会議等で話し合いの場を持ち、管理者が取りまとめ仕上げた。また前年の外部評価の結果についても改善点を話し合い問題点を明確にし、日々のケアの向上に取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項　目	取り組みの事実（実施している内容・実施していない内容）	○印（取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容（すでに取組んでいることも含む）
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は家族代表・町内会長・民生委員・地域包括センター職員・グループホーム事業室・管理者等が参加し３カ月に一度開催。ホームからの報告の他に地域包括センター職員、地域代表、家族代表等の活発な意見交換がなされており、日々のケアサービス向上に活かしている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の依頼でキャラバンメイトの講師や、認知症実践者研修の実習生を受け入れている。市の担当者との連絡は母体法人のグループホーム事業室が行い、常に利用者本位のサービスの質の向上に取り組んでいる。		
4．理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	個別に手書きコメント付きの園便り（ユニット別）を毎月発行し、写真・金銭出納帳のコピー・領収書も同封している。園便りは入居者にもわかるよう、見やすいところに掲出されている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年一度、無記名での家族アンケートの実施、運営推進会議の出席、電話や家族面会時の会話の中で苦情・要望をくみ取るようにし、ケアの改善や見直しに反映している。	○	家族会の設立予定、苦情・要望箱の設置予定との事で今後に期待します。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	日ごろから利用者とは馴染みの関係が作れるように配慮しているが、異動があった時には入居者への影響を最小限にするために関わり合いを多く持つことによりダメージを防ぐよう努力をしている。職員の異動等については園便りに載せ家族・関係者に周知している。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
5．人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間研修計画を立て、グループホームの内部研修（アセスメントの仕方・記録の書き方・センター方式・接遇について等の勉強会）を定期的に実施。北海道ｸﾞﾙｰﾌﾟﾎｰﾑ協議会等が主催する外部研修にも積極的に参加している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	北海道グループホーム協議会に入会し、管理者研修・スタッフ研修に参加しネットワーク作りをしている。外部研修やセミナーの参加、区の管理者協議会での意見交換をケアの充実に役立ている。また男性職員は男性スタッフでだけで作る『男爵会』に参加し相互交流をしている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 **1．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応**					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前にホーム見学をし、入居までの生活様式を尊重しながらレクレーションや家事の参加等で徐々に慣れていただけるよう援助し、以前の生活状況をもとにケアの継続をしている。		
2．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	散歩・買い物等は利用者と職員が一緒に行っている。食事の支度も調理方法や昔からの創意工夫を聴きながら皆で楽しんで行っている。同じ時間を共有する者同士、共に支え合う関係を構築し信頼関係を深めている。		

外部評価	自己評価	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント **1. 一人ひとりの把握**					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりの人格と本人の思いを尊重しながら接している。共に生活する中で気づいた事は記録に残し、個別対応に役立てている。センター方式を検討・準備中。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	本人・家族・関係者とよく話し合い、モニタリングやカンファレンスを通し、職員全員で話し合いを重ね、利用者主体の介護計画作成に取組んでいる。必要な時はその都度作成し直している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画はアセスメントをもとに本人・家族・関係者と相談し、意向を聞きながら作成し3ケ月に一度見直しをしている。また変化のあった時は随時見直しを図り、実情に即した介護計画を作成している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ホームの季節行事やドライブ、町内会・地域の行事の参加。日常的な散歩・買い物・友人訪問・通院時の送迎・墓参り等、事業所の多機能性を生かし柔軟な対応をしている。		

外部評価	自己評価	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
4．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療連携体制をとっている。訪問診療は２週に一度、健康管理は週一度の実施。個々のかかり付け医への通院にも付き添い支援をしている。系列病院の医師、看護師とは、24時間体制で連絡がし合え、適切な医療が受けられる様システム作りをしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	『重度化した場合における対応指針』に関する説明をし、家族・関係者の同意を得ている。系列病院・訪問看護ステーションとの連携体制は出来ている。なお利用者の体調変化の際はその都度家族と話し合いを持ち援助している。		
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 **1．その人らしい暮らしの支援** **(1) 一人ひとりの尊重**					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者本人のプライドや羞恥心を大切にし、プライバシーに関わる事は周囲に配慮しながら行っている。また命令口調にならないよう注意しながら接している。記録等の個人情報は事務所で厳重に管理している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	時間で生活するのではなく、一人ひとりのペースに合わせ、日々をゆっくり過ごしている。起床時間・食事・入浴・就寝時間等は体調を考慮し柔軟に対応している。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者に調理方法や手順を聞き、食事の準備・味見・配膳・後片付け等残存能力に合わせ、個々の出来る範囲で職員と共に楽しんで行えるように支援している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴できる体制にあるが、本人の意思を大切に入浴支援をしている。リラックスして入浴出来るよう好みの入浴剤を入れ、清潔で明るい浴室の雰囲気作りもしている。また個々の状況に合わせ清拭も行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	気晴らしの外出・散歩。楽しみな家族の面会、誕生会・季節の行事の参加等。 通院・お見舞・友人訪問等、行きたい所へ行く事が出来る様に、個別に支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	一人ひとりの希望に添った支援が出来るよう、天気の良い日は個別に散歩・買い物外出している。車いすで近隣の公園にも行っている。またユニット間を相互訪問する事で、利用者・職員との交流がはかられ、気分転換が出来るよう支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中玄関の鍵は掛けていない。利用者の動作・しぐさ・気配を読み取り、さりげない声かけや見守りで鍵を掛けないケアに取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の指導のもと年2回の防災訓練の実施。救急法は全職員が消防署の訓練を受けている。非常時には町内会の協力が得られるよう運営推進会議で話し合われている。避難マニュアルを作成している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量を記録している。水分摂取の少ない利用者にはゼリーで対応。系列病院の管理栄養士が作ったメニューを参考に、栄養バランスを考え、食欲が出るよう見た目にも美しく盛り付けしているし、咀嚼・嚥下状況にあわせた食事を提供している。		
2．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間の壁には利用者が手芸教室で作ったタペストリーや行事写真が飾られ、華道教室での季節の生け花も随所に置かれている。雪が降り積もる時期には、屋外のウッドデッキに皆で作った雪だるまが飾られる。他に日常生活の匂いや音（食事作りや掃除）で五感を刺激し、快適な居住空間を作っている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室は広く、ソファー置いて自由にゆっくりくつろぐスペースがある。なじみの家具や生活用品、趣味道具等を持参し、家族の写真や手芸教室での作品を飾り、個々の状態に合わせ、心地良く安心して過ごせる様工夫している。		

※ ▇ は、重点項目。